



野澤 茂雅 議員
(戸田の会)



子供・保護者・保育士、皆が楽しく幸せに

保育園の保育内容・労働環境の改善

Q 保育の質・魅力の向上事業を推進している中、民間保育所における、園運営の不備・劣悪な労働環境・職員離職・保護者の不信感・保育環境の混乱などが発生した場合の対応(監査・是正)について伺う。

A 埼玉県の施設監査と同日に確認指導監査を行うほか、市の保育士・看護師が園訪問を行い、運営・保育内容・衛生・労務などを確認し指導している。指導内容は、指導事項・注意事項・助言事項の3区分で、特に法令違反や安全配慮に関わる指導事項については、是正まで継続指導し、必要に応じて改善勧告などを行う。

Q 市内の民間保育所には、通常監査では見えない多くの不備を抱えた園が存在する。改善するには行政の確実な監査・指導が必要である。推進していただきたい。



魅力ある保育の力で子どもたちの成長を支える

中学校での飲料自動販売機の導入

Q 本市では、飲料メーカーと災害対応型自動販売機等に関する災害協定等を締結し、公共施設に設置している。これを、防災・熱中症・教育的効果・地域連携の観点から中学校に設置することについて伺う。

A 全国的には中学校に設置している例もあり、水筒を忘れたなどの生徒への対応や猛暑下の水分補給手段の一つとして有効。一方で、導入・運用に関しては、金銭や衛生面などの管理に配慮が必要となる。自動販売機の導入に限らず、生徒の自主性を大切に*
取り組みは、本市のPBLの理念と一致する。売上の一部が「部活動地域展開の取り組みの一環」として、地域クラブ活動の運営団体に寄附される仕組みについても研究していく。



竹内 正明 議員
(公明党)



障がい者が活躍する機会を広げてほしい

障がい者スポーツ・文化芸術活動推進

Q デフリンピック開催を機会にパラスポーツだけではなくデフスポーツ選手の支援や聴覚障がい者についての理解が前進する良い機会だと考えるが見解は。

A その他のスポーツと同様に活躍している選手への助成や表彰を行うとともに、情報発信による支援、デフスポーツに触れる機会の提供など、理解を深められるよう関係所属や関係団体と連携しながら取り組む。

Q 障がい者の活躍の機会や理解を広げるためデフスポーツの推進にも取り組んでほしい。また戸田市文化芸術推進条例の理念にある「障害の有無等にかかわらず等しく、文化芸術活動に取り組むことができる環境の整備」は重要だ。市役所庁舎内や戸田ボートレース場の空きスペースなど、市民の目にふれやすい場所に障がい者アートを展示するなど、活躍する機会の拡大を。



本市の上森選手も出場したデフリンピック

障がい者の就労支援

Q 学校卒業後の就労選択に向けた取り組みとして「支援学級などでの早い情報提供」を訴えてきた。現状は。

A 令和6年6月議会で答弁したとおり、企業と連携した進路や就労の説明会を今年度も中学校で実施し、生徒やその保護者に対して、進学を選択肢だけではなく、将来の就労や自立の観点から情報提供を行っている。

Q 令和7年10月に開始した就労選択支援の利点は。

A 本人の希望や適性に応じて、就労に必要な知識および能力の向上に資する福祉的就労サービスや、一般就労への移行といった就労に関する機会が提供されるものとする。令和7年10月末時点で県内において24事業所が開設されている。



石川 清明 議員
(公明党)



災害時に安全に治療を

災害時の透析患者への対応について

Q 災害時における透析患者への安全確保の対応は。

A 避難行動要支援者支援制度により、高齢者や障がい者などの情報を、平常時から避難支援等関係者と共有し、災害時には、可能な範囲で避難支援を行う。透析患者に関する平常時の連携は「藤・戸田地区保健医療協議会」にて情報共有や顔の見える関係を構築、発災時には、埼玉県「災害時透析医療確保マニュアル」に従い、安否確認や支援活動を行う。

Q 自治体向けの災害時の際の対応マニュアルは厚生労働省のガイドラインに基づき、各都道府県や市町村が策定している。災害時に迅速かつ確実に、誰が担当しても透析治療を継続できるよう、本市においても透析患者対応マニュアルを策定してはどうか。

A 透析患者の対応に特化したマニュアルはないが、今後、地域防災計画の改定時におけるマニュアルの整備を行う際に、透析患者に関する対応の記載を検討する。



災害時の視覚障がい者避難行動支援

Q 災害時に自立かつ安心して避難するための支援ツールとして、「ナビレンス」を活用してはどうか。

A 「ナビレンス」はスペインで開発された視覚障がい者向けのアプリで、スマートフォンのカメラで2次元コードを読み取り、距離や情報が得られるものであり、他市の公共施設で実証実験を実施していることは把握している。活用については、引き続き他自治体の動向を注視し、調査を進めていく。



三浦 のぶお 議員
(公明党)



大切な市民ニーズを計画に反映を

西部福祉センター再整備基本構想

Q 商業施設の少なさや地域の活動場所不足といった課題に対し、施設を中心としたイベントや活動拠点とすることに加えて、商業機能併設の考えがあるか伺う。

A 市民ワークショップにおいて、地域のイベントを開催できる活動場所や、カフェラウンジといった商業機能の併設、こどもの居場所や学習スペースを希望するご意見などを頂いている。現時点では、どのような機能やスペースを有するものとするかは決まっていないが、地域の課題解決に役割を果たすものとなるよう、再整備に向けて取り組んでいく。

Q 地域特性や住民意見を踏まえ、今後の西部福祉センター再整備に向けて、市長としてどのように考えているか伺う。

A 西部福祉センター再整備に対する、地域の皆様の期待や思いを強く感じているところである。今後、西部福祉センター再整備基本構想に基づき、美女木・笹目地域の課題解決に役割を果たす拠点としての再整備を進め、地域の魅力向上を目指していく。



西部福祉センター

期日前投票の環境整備について

Q さくらパルへの期日前投票所設置の可能性は。

A さらなる期日前投票所の設置においては、立会人や事務従事者の確保、開設経費など、選挙を執行していくためには、これ以上、期日前投票所を開設することは難しい状況である。

Q 将来の投票環境の選択肢として、検討対象から外さないという柔軟な姿勢をお願いしたい。